

校長室だより No 17

鮭の受精卵が届きました・・・

2021年 11月26日 柏市立土小学校 校長 梅津 健志

土小学校の経営に関してお気づきの点やよい改善案は、お聞かせください。 <https://forms.office.com/r/BiUUZUnxvy>

学校 HP でもご紹介したように、昇降口に鮭の受精卵が届き、誰でも観察ができるようにしました。2年生の国語の教科書に「さけが大きくなるまで」という教材があります。その教材に合わせて観察してみるとよいのですが、教材を学習する時期が早くなり、今年は終わっているようです。以前、こんな授業に出会ったことがあります。教科書には「おなかに、赤いぐみのみのようなえいようの入ったふくろがついています。」という文があります。栄養が入ったふくろという表現を、生き物アルバムという本で調べていた子が、「お母さんが残してくれたお弁当なんだ！」って発言した瞬間、クラスみんなが「そうかあ、わかった、」との声。その前の段落には、「さけはおびれをふるわせて、砂や小石の川底をほります。深さが30cmぐらいになると、そのくぼみの底にたまごをたくさんうんでうめてしまいます」という文があり、それを読んだ後、どんな感じなのか校庭に出て、手で校庭を掘ってみようと校庭に、掘ると子供たちは「無理無理」、砂場だったら・・・「砂場でも30cmは大変」という体験をしていたので、栄養の入った袋はお母さんが残してくれたお弁当という言葉とつながり、「すごーい」という命のつながりと生き物の知恵を実感していました。その後、鮭の卵の観察にも一生懸命になり、お弁当が無くなったらどうすればいいかな、とエサをあげるタイミングを見つけていきました。

今回は、水槽の横に温度を記録する表を貼りたいと思います。2年生に順番に水槽の温度を記録してもらおうと思います。そして、いつになったら孵化するか、予想しながらその時を待ちたいと思って計画しています。

子供たちの学習は、身近な体験や実際の経験などと結びついた時に、文字で学んだことが理解でき、それを別のことにも使っていけるような学力になっていきます。ドリル的な学習では身につかない本物の生きる力はそういう力だと思います。

ですから、できるだけ本物と出会い、本物で学ぶ機会を大切にしていきたいと考えています。

この鮭の卵は、東日本大震災以前は福島県の木戸川漁協から受精卵を購入して、ほぼ全校で実施していました。当時は教頭会の中に卵を買いに行く係や学校に配付する係がありました。震災で壊滅的な被害を受け、さらに放射線被害により福島県からの受精卵の共有が途絶えてしまいました。土小の4代前の秋谷校長先生が、退職後に途絶えさせないようにと新潟県から受精卵を購入して、15校程度で実施していましたが、何とか全校で昔のようにできないかと相談を受けて、東葛教育会館に事務局をお願いし、資金面や各校への配送を柏西ロータリークラブの会長さんに相談させていただき、ロータリークラブのCSRとして事業化していただくこととなりました。「かしわ・さけたまプロジェクト」と名付けられたプロジェクトとして今年から再スタートします。卵からかえり、放流の際には、各学校で育った稚魚をクラブの皆さんが集めてくださり、利根川に放流する予定です。放流シーンはインターネットライブ中継を予定し、各教室から参加できるようになります。

子供たちに本当の力をつけていくためには、地域の方々と一体となった教育活動が大切です。来週のミニ集会では、「できること」「やりたいこと」「やってほしいこと」「こうなればいいな」を出し合えればと思います。



教育ミニ集会 参加申し込みフォーム QR コード



みんなで語ろう！

地域と 共に創る 学び

2021

教育ミニ集会

SchoolとAreaのCollabo

「学校」 「地域」 「協同」

21世紀に生きる「学び方」を考えてみましょう！！

場所：柏市立土小学校 体育館 柏市増尾4-4-1

12月3日 **金** 14:30～16:00

土小PTA・増尾町会・増尾地区企業の皆様

お一人様でもご参加ください
土小はコミュニティー・スクールに向けて動き始めます

第1部

14:30～15:00
「学校の実態とこれからを語る」

校長 梅津 健志

第2部

15:00～16:00
「子どもにつけたい力は？
そのために何が出来る？」

ワークショップで意見集約

お問い合わせ 柏市立土小ミニ集会事務局 教頭

TEL 04-7172-4805

URL <https://kashiwa.ed.jp/tsuchi-e/>